

# 変形性膝関節症に再生医療

## 患者の血小板による「PRP療法」

変形性膝関節症に悩む患者本人の血液から抽出した血小板血漿を凝縮して患部に注入する再生医療の一環「PRP（多血小板血漿）療法」を、福井市の大森整形外科リウマチ科が今月導入した。大森整形外科によると、北陸3県で初めて。健康保険適用外だが、自然治癒力を活用した療法によって、従来の手術や保存療法以外で患者の選択肢を広げる狙いがある。（前田卓）



変形性膝関節症は膝関節の軟骨がすり減ることで発症し、進行すると痛みや腫れ、歩行困難になるケースもある。従来は鎮痛剤やヒアルロン酸注射による保存療法か、人工関節置換手術が中心だったため、PRP療法は「第3の治療法」と言われている。

患者から血液を採取し、細胞の成長因子を含む血小板を高濃度に凝縮・活性化させたPRPを患部に注射する。関節内の炎症を抑えたり、損傷した組織の修復を促したりするという。

大森整形外科は通常のPRP療法に加え、血小板からタンパク質をさらに高濃

度で抽出して注入するAPS（自己タンパク質溶液）療法も導入。二つの療法によって半年から2年程度、痛みを抑える効果が期待できるとしている。ただし、注射後の数日間は腫れや痛みが出ることがあるほか、膝の変形が高度な人やリウマチなどの全身疾患がある人は対象外としている。

15年間で2千件を超す人

工関節置換手術の実績がある大森整形外科は、導入に向け遠心分離機やクリーニングベンチなどの施設を整備。法

律に基づく「第二種再生医療等提供計画書」を国に届け出で7月末に受理された。米

大リーグの大谷翔平選手が肘の治療に取り入れたことでも知られる筋・腱・韌帯

傷害に対する「PRP+FD療法」も導入。いわゆるテニス肘や肉離れ、筋挫傷

といったスポーツなどによる傷害もPRP+FD療法で対応できるようにした。

大森弘則院長は「PRP療法は保険適用外ではあるものの、学会で成功例が多く報告されている。変形性膝関節症で悩む人に、新たな選択肢を提供していきたい」と話している。

## 大森整形外科(福井)が導入